

さがみはら

発行：相模原市総務課市史編さん室

市史編さんだより

第4号

2002.1.5

貴重な資料が続々と

前号のたよりで資料の整理や調査の進展状況についてお知らせしましたが、本号では、現在、整理を進めている、上溝の今井テル氏寄贈資料の中から、目を引いたものについてご紹介したいと思います。

今井家の資料は、整理の結果、すでに総点数で 4000 点近くに達していますがその中には貴重な資料も数々含まれています。中心を占めるのは、公民館に関係した資料ですが、その中に「上溝通信」という定期刊行物が含まれています。残念ながら、創刊号から第3号までは欠けていますが、第4号以降のものが保存されています。第4号は昭和24年2月発行で、初期のものは毎月発行されているため、創刊は昭和23年11月と推定されます。発行所は、第13号（昭和24年12月発行）から「上溝公民館運営審議会」となっていますが、それ以前は「上溝社会教育委員会」とあります。

つまりこの資料は、相模原に公民館が設置される以前の社会教育の動向を知る手がかりとなる、戦後社会教育草創期の貴重な資料ということが出来ます。相模原町（当時）に「公民館設置条例」が公布（昭和 39 年廃止）されたのは、社会教育法の公布後間もない昭和 24 年 10 月のことで、上溝公民館は大沢公民館とともに町の第1号公民館として開館しています。この「通信」の中には、昭和 24 年 12 月の上溝公民館開館の様子や、米軍占領下に軍政部によって同年4月、上溝中学校正門脇に開館した「相模原図書館」の様子なども記されています。

公民館発行の「通信」とは言え、内容はまさに町の広報紙で、記事の中には「PTAだより」「青年団だより」「地区だより」なども含まれています。

また、地域生活を知るさまざまな情報も盛り込まれています。昭和 24 年2月発行の第4号一面には、結婚式や結納の簡素化をうたった「結婚改善要項」が掲載されていて、当時の生活改善運動の一端を伺い知ることが出来ます。また、同年3月発行の第



5号には、上溝小学校星ヶ丘分校（当時）に「上溝児童健康相談所」が設置されたこと、4月発行の第6号には「星ヶ丘にガス点火」「星ヶ丘商工連盟結成」などの記事が見られます。さらに、5月発行の第7号には「星ヶ丘小学校生る」の記事があり、4月15日に上溝小学校星ヶ丘分校が児童432名、職員12名体制で、星ヶ丘小学校

として誕生したことを知ることができます（なお「星ヶ丘」は、昭和43年に住居表示の実施により「星が丘」となりました）。

「上溝通信」は、5年間に渡って残されていて、昭和29年1月発行の第43号まであります。その後、昭和36年には「相模原市公民館報」の第1号が相模原市公民館連絡協議会から発行されており、これも今井家資料に含まれています。これらの「通信」や「館報」から、地域の細かい動向を追うことが可能であり、市史現代編記述のための資料として価値あるものと言えます。（学芸員 浜田弘明）

第3回市史編さん審議会を開催

11月17日（土）、博物館大会議室を会場に、第3回市史編さん審議会を開催しました。前回に引き続き、「相模原市史続編編さんの基本的な考え方について」を議題に、2時間ほどの審議が行われました。

当日は、市史続編編さんの基本的方向性について審議され、答申の骨格が具体的に見えはじめてきました。現在までの審議結果では、市史続編は10巻の刊行が必要で、現行市史にない大正2年以降の「近代資料編」のほか、昭和20年8月15日の第二次世界大戦終結以降を対象とした「現代編」を4巻、考古・民俗・自然・文化遺産を対象とした「テーマ編」を4巻、そして、年表・目録・目次などをまとめた別巻などが考えられています。また、相模原の歴史全体を読みやすくダイジェスト風にまとめた、廉価な『市史普及版』も必要との意見も出されました。

体裁については、デザイン性に優れ、品質の高い『市史』とすることを目指し、写真・図版を多用する巻については大判化を図るとともに、書籍以外の媒体（CD-ROM、ビデオ、カセットテープ、CDなど）での刊行についても検討の余地があるとされました。また、『市史』は市民が入手しやすいように廉価にしたり、普及や活用促進を図るため、講座・講演会・学習会などの事業も必要との指摘がなされました。

市史編さん続編刊行事業は、今後10年以上の長期にわたる事業期間が見込まれるだけに、着実な刊行への配慮や、そのための職員や予算の確保についても意見が出されました。具体的編集に当たって、編集委員会の組織化や、調査・執筆者の人選についても論議され、相模原ゆかりの研究者や研究団体を積極的に起用すべきとの指摘もありました。次回は、1月中旬に答申に向けての最終審議となり、市長への「答申書」が取りまとめられる予定です。

前市史編集室の写真から 2

前号では、前市史編集室が撮影した写真の中から、「鹿沼」の写真に掲載しましたが、本号では、前回に引き続き、沼の写真の中から「大沼」をご紹介します。



「大沼」は「鹿沼」とともに、局所的に地下水が浅くなっている、「宙水」と呼ばれる地域にある沼地です。水は見えませんが、写真奥の林の手前、草地になっているやや低い所が「大沼」です。ここは、かつて水田として利用されていました。この写真は昭和 39 年に撮影されたものですが、ここは間もなく埋め立てられ、宅地造成が始まりました。昭和 39 年に撮影された神奈川県航空写真を見ると、ブルドーザーで造成している姿が見えるので、これは「大沼」最後の姿を記録した写真と言えるでしょう。

「大沼」跡地は、現在、住宅街となっていますが、大沼神社を取り囲む池や、この地域が周囲よりも 1～2 メートル低い様子などから、わずかに沼の名残をみることができます。また、かつての沼の外周に沿って、現在も道路が残っているため、地形図からも、その位置を容易に確認することができます。（学芸員・浜田弘明）

..... 私たちが資料整理を進めています！その 2

● 平塚健太郎（ひらつか・けんたろう）

9月から、資料整理のお手伝いをさせてもらっています。現在は、町田市に住んでいますが、相模原市の生まれなので、相模原市域の現代史にはとても興味を持っています。どうぞよろしくお願い致します。

● 小田原漣（おだわら・みお）

11月から資料整理のお手伝いの仲間入りをさせていただいた小田原と申します。相模原市からは少し遠い、埼玉県新座市から通っていますが、相模原市のことをたくさん学んで行きたいと思っています。



編さん室の動き（11～12月）



月	日	内 容
1 1	6	大和市地名講座講師（浜田学芸員）
	7	非常勤特別職の設置について打ち合わせ会議（本庁）
	1 5	総務課より廃棄文書受入れ
	1 7	第3回「市史編さん審議会」開催（博物館大会議室）
	2 1	非常勤特別職の設置について主管会議（本庁）
	3 0	平成14年度予算要求書（2次経費）提出
	1 2	1
5		市史編さんについて木下助役と打ち合わせ 平成14年度予算について財務課ヒアリング（本庁）
8		昭和館ほか視察調査（井上副主幹）
1 2		津久井町町史編さん室・井上氏来室
1 4		平成14年度予算について財務課への説明（本庁）
2 0		非常勤職員要求について事務管理課と打ち合わせ（市史編さん室） 非常勤特別職の設置について職員課と打ち合わせ（本庁）
2 6		企画部職場研修に出席（ウェルネスさがみはら、田所主幹）
2 8		仕事納め式

市史編さん室が発足してから、初めての予算要求の時期を迎えました。具体的に事業がスタートすると、人の面でも予算の面でも足りないものばかりが目についてしまいます。来年度は、より充実した体制と予算で編さんに取り組もうと、室員一同、入念な計画づくりを進めています。

新年を迎え、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「さがみはら市史編さんだより」第4号

発行 平成14年1月5日

編集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-15 市立博物館内

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8061